

## 【歯科診療所の初診、再診数推移】

「医療経済実態調査」から歯科診療所の初診患者数、再診患者数の経年推移をみてみます。  
(<http://www.mhlw.go.jp/shingi/2007/10/s1031-3.html> などより。)

データは、「全体」＝個人とその他（医療法人、市町村立など）のものです。  
(個人だけのデータでは、ここに示した数値よりも低い数値になっています。)

この調査は（1984年、1987年を除き）6月に行われており、歯科においては6月は一年のうちでも患者数が多い月であることを考慮する必要があります。

「歯科診療所の一平均外来患者数」のページ

<http://www.minnanoshika.net/wiki/index.php?%BB%F5%B2%CA%BF%7%CE%5%BD%EA%A4%CE%B0%EC%6%FC%CA%BF%B6%D1%B3%B0%CD%E8%B4%B5%BC%D4%BF%F4>

で示したデータとは元になる資料が異なっているため、違った結果になっています。

(上のデータは、厚生労働省「平成17年(2005)医療施設(静態・動態)調査・病院報告の概況」および「患者調査」より作成しています。)

1997年に初診数・再診数の急激な減少が見られます。1997年は本人2割自己負担が導入された年です。

「支出弾性」の高い歯科では、自己負担割合が増加すると受診抑制が強く働きます。

(参考・・・歯科医療の特質について

<http://www.minnanoshika.net/wiki/index.php?%BB%F5%B2%CA%B0%E5%CE%5%A4%CE%6%C3%BC%1%A4%CB%A4%4%A4%A4%A4%4%C6>)

この10年間で歯科診療所は1996年59,357が2005年には66,732(医療施設調査より)と大きく増加しています。一方、歯科の推計患者数は、1996年1,301.6千人が2005年には1,277.2千人とやや減少しています。(「患者調査」より。推計患者数とは、調査日当日に、歯科診療所で受療した患者の推計数をいいます。)

(参考・・・歯科診療所の一平均外来患者数

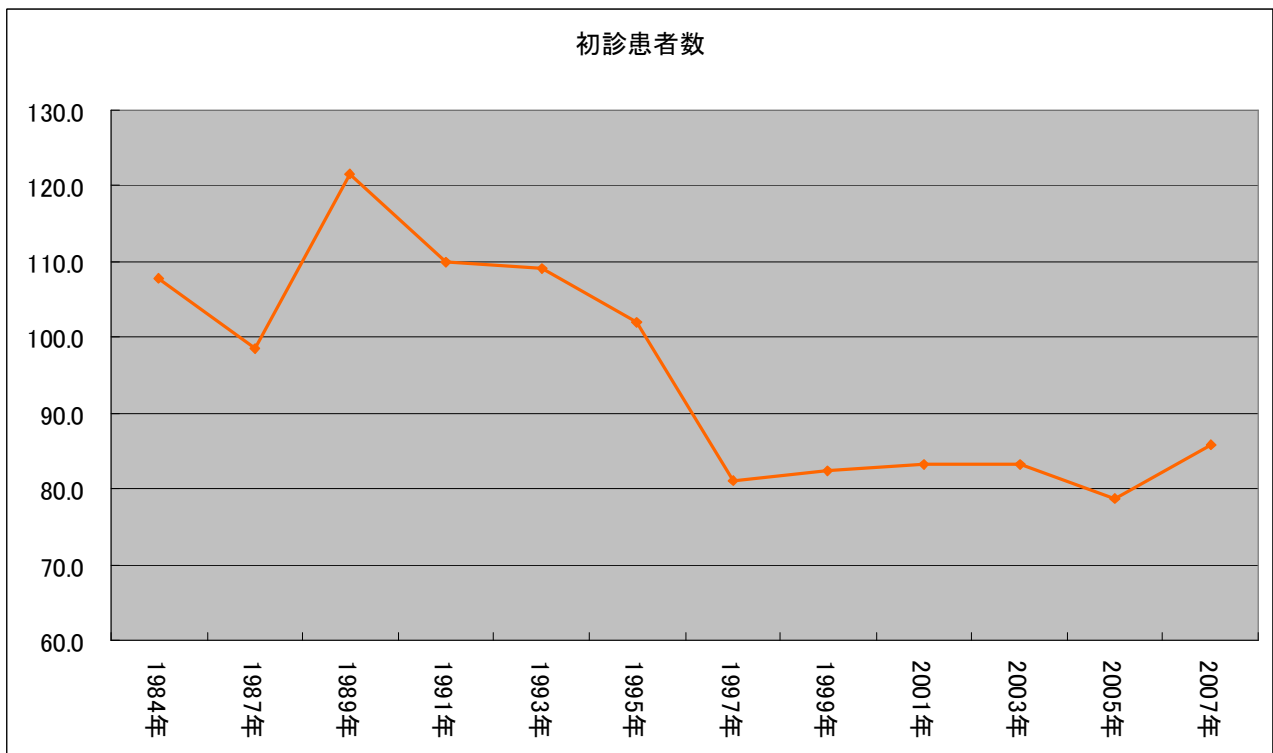
<http://www.minnanoshika.net/wiki/index.php?%BB%F5%B2%CA%BF%7%CE%5%BD%EA%A4%CE%B0%EC%6%FC%CA%BF%B6%D1%B3%B0%CD%E8%B4%B5%BC%D4%BF%F4>)

(参考・・・歯科医師数基本データ

<http://www.minnanoshika.net/wiki/index.php?%BB%F5%B2%CA%B0%E5%BB%D5%BF%F4%B4%F0%CB%DC%A5%C7%A1%BC%A5%BF>)

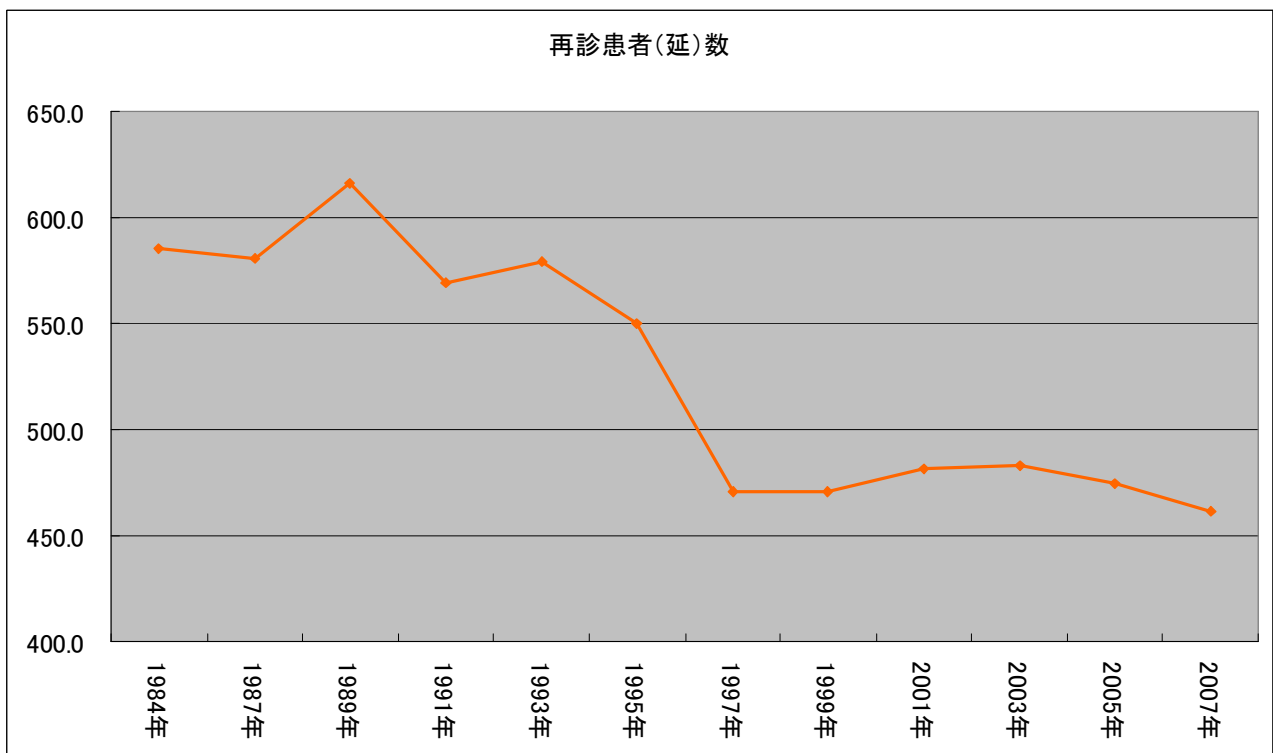
それにも関わらず、初診数・再診数は、1997年以降は大きな変化は見られていません。これは何を意味しているのでしょうか？患者数確保のため、歯周のメンテナンスを長期間続ける、あるいは頻繁に初診を起すということが行われ、この数値として現れているのでしょうか。

	初診患者数	再診患者 (延)数	初診・再診患者 (延)数	外来診療日数	一日あたり外来患者数
1984年 (11月)	107.8	585.6	693.4		
1987年 (11月)	98.6	580.5	679.2	21.6	31.4
1989年 (6月)	121.6	616.3	737.9	23.0	32.1
1991年 (6月)	110.0	569.2	679.2	22.1	30.7
1993年 (6月)	109.1	579.4	688.5	22.0	31.3
1995年 (6月)	102.0	550.2	652.2	22.5	29.0
1997年 (6月)	81.1	471.0	552.1	21.3	25.9
1999年 (6月)	82.4	471.0	553.4	22.8	24.3
2001年 (6月)	83.2	481.6	564.8	22.9	24.7
2003年 (6月)	83.2	483.0	566.2	22.4	25.3
2005年 (6月)	78.7	474.7	553.3	22.5	24.6
2007年 (6月)	85.9	461.2	547.1	22.8	24.0



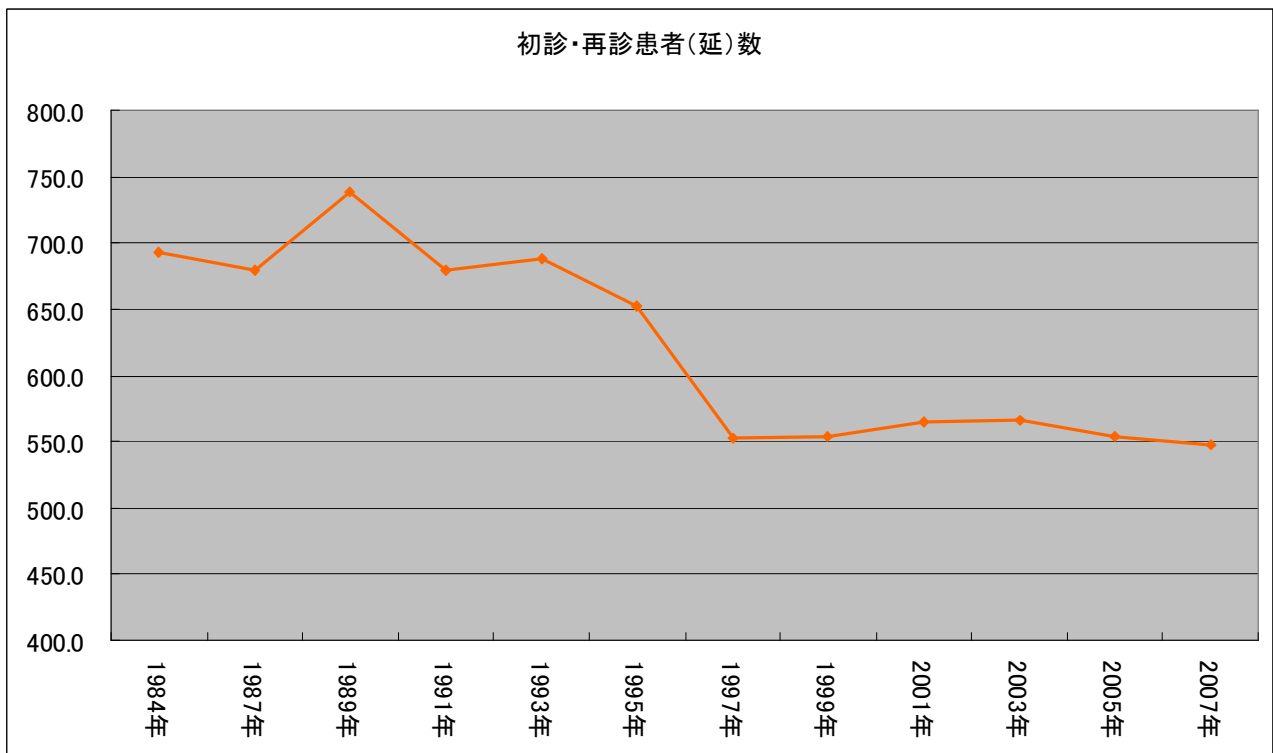
1997年に大きく減少しています。それ以降はほぼ横ばいですが、2007年には上昇しています。これが定点観測ではないこの調査の誤差なのか、2006年の保険改定の影響によるものかは不明です。(P総診の廃止の影響)

1989年を100とすると、2007年では初診患者数は70.6となっています。

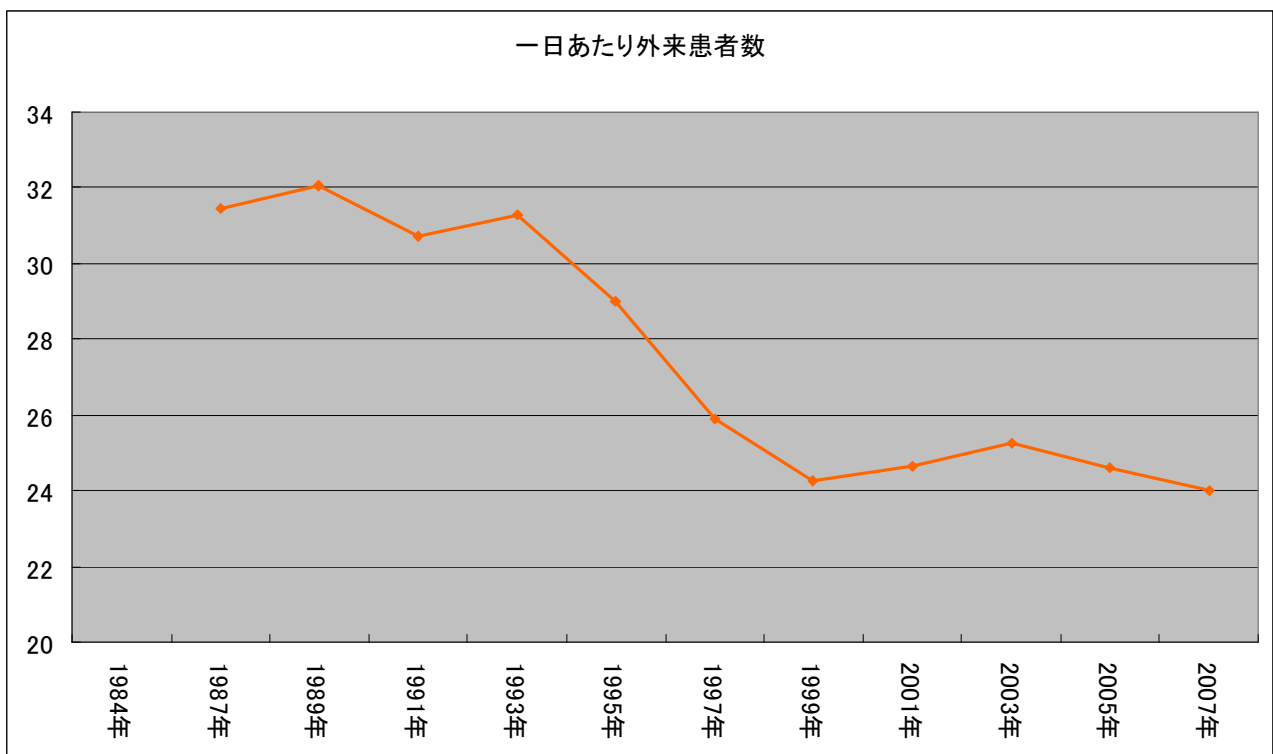


同様に1997年に大きく減少し、それ以降はほぼ横ばい、あるいはやや低下傾向にあるようです。

1989年を100とすると、再診患者(延)数は74.8となっています。



初診数と再診（延）数を合計したものです。1997年以降はほとんど変化がありません。1989年を100とすると、初診・再診患者（延）数は74.1となっています。



1989年を100とすると、一日あたり外来患者数は76.4となっています。